

相生山の四季を歩く会の古川です。資料7ページの「ラブリーアースJapan」はこの会を運営している市民団体で、私は双方の事務局を担当しています。共通のホームページがあります。

私たちは、市長さんが「相生山の道路は造るべきでない」と考えてみえると理解しています。しかし、中止するにはあまりにも障壁は高い。それでも一步を進めるために、今日ここに座っている仲間たちのことを紹介し、この5年間に学んできたことを述べさせていただきます。後ほど仲間たちもその思いを語ってくれるはずです。

四季を歩く会は2009年12月、「市長との対話集会」を経て工事が中断することになった時「相生山ってホントはどんな所?」という問題意識から始まりました。55回のべ1,660人。参加者の声を基本に認識の発展に沿って率直な提案をさせていただいてきました。

私たちは工事中断によって初めて、生まれることが出来た会です。「新たな生きがい」「生活の大事な一部」と相生山に集まってくる市民たち。森の中で心豊かに仲間が広がってきました。その代表たちがここにいます。

森が切り開かれ、例えば私たちが明日も歩く散策路の横を、頭上を車が走っていれば決して知り合うことはありませんでした。

つまり、相生山の道路を貫通させてしまうことは、生き生きした楽しい体験をしたり、新しい友人たちと出会ったりする市民の可能性を奪ってしまうことになるのです。

まもなくESDユネスコ世界会議が開かれます。相生山でESDを取り組む試みとして、相生の里山連絡会や多くの皆さんと共同して5月と7月に4つのフィールドワークなどを含むシンポジウムを開催しました。地域の親子連れを中心に300人もの方々が参加してくれました。この企画を準備した仲間、そこで出会った仲間もこの場にいます。

「森の中で目を輝かせているたくさん子どもたちの姿を見られたことが何よりうれしかった」何人もの大人たちがアンケートにそう書きました。緑区の戸笠小学校5年の男子は「ホタルなどが工事とかなので、それはだめだと思った」と感想を残しています。

私たちの会を母体に「相生山を愛する緑区民の会」と「弥富相生山線を公園緑地に替える会」が誕生し、一緒にリーフレットを作り、地域(いわゆる4学区)に9000部以上、計1万200部を配布しました。そのなかで出来た仲間も今日参加しています。

「工事が未着工だったなら計画撤回もあるが・・・」識者がしばしば語る論調です。しかし、どうでしょう。造る前でも、造る途中でも、造ってしまっても要らないものは要らないのです。

「無益な殺生」という言葉があります。ヒトは自らが生きていくために周りの自然環境・生態系をやむを得ず壊さざるを得ない存在でありましょう。しかし必要最低限を超えたとき、その結果は人のいのちと生活の危機としてはね返ります。昨今の地球規模での異常気象や全国各地の「自然災害」とされるもののほとんどはそうしたものだと言われています。

「学術検証委員会」はその答申の中で「市民生活の質の向上」「名古屋市グランドデザイン」を提起しました。これから、どのような名古屋を創っていくのか。政治家や行政マンだけでなく、すべての市民に問われている課題です。

相生山の道路もその長期的な大きな戦略の中でとらえられなければ、正しい判断は生まれません。自然に抱かれ、自然を大切にすることで人もまた生かされている、これが科学的真理です。一番の根本に据えられなければなりません。

僭越ですが、私たちは河村市長を助け、市長とともに判断しようとしています。

この計画にこれまで29億円使われたとのこと。名古屋市民一人当たり1300円。多いとみるか、少ないとみるか。のちの世からも正しいとされる判断を下し、この1300円を生かさなければなりません。

全国でたくさんの人々が困難と取り組んでいます。誤りを認めようせず固定化したり、強引に遂行したりすることでいのちの危機が進行しています。名古屋市民の決断は人々を励ますでしょう。ESD会議に来訪する世界の人々にもお手本を示すことが出来るでしょう。

力を合わせることを呼びかけます。私たちがリーフレットを配った時、たくさんの方が好意を持って受け入れてくれました。道で出会った人に渡そうとすると「ポストに入ってたで読ませてもらったよ」「ご苦労さま、あとでちゃんと読んどくでな」工事再開を願う方が多いと言われる区域での反応です。別の意見もありましたが、その10倍もの応援メッセージを電話でF a xでメールでブログの書き込みで受け取りました。たいへん楽しい配布活動でした。

市長さんをお願いします。どうぞ市民を信じて、先頭に立って進んでください。なぜ道路建設計画を撤回する必要があるのか、相生山には道路ではなく緑地公園が求められている

わけを市民にいていねいに説いてください。とりわけ「道路開通が地域の問題を解決する」と間違って期待してきた人々をフォローしてあげてください。

副市長さん、緑政はじめ市民のために働く市職員の皆さん、市長と力を合わせて私たちと一緒に、ご尽力をお願いします。

マスコミの皆さん、何が問われ、何を基準に判断されなければならないのか。未来につながる市民のいのちと生活のためということを見据えてください。

その当時はともかく、今となっては不要になってしまった都市計画道路の1本の線を消しましょう。

人と自然が触れ合えて、人と自然の関係の象徴となる相生山緑地公園を未来に残すために、私たちも努力します。

終わります。ありがとうございました。